

【08.3期決算説明資料】(要約版)

# 引き続き堅調なエネルギー需要に確実に応える

— 供給能力拡大に向けた設備投資を継続中 —

株式会社日本製鋼所  
代表取締役社長 永田昌久

2008年5月22日

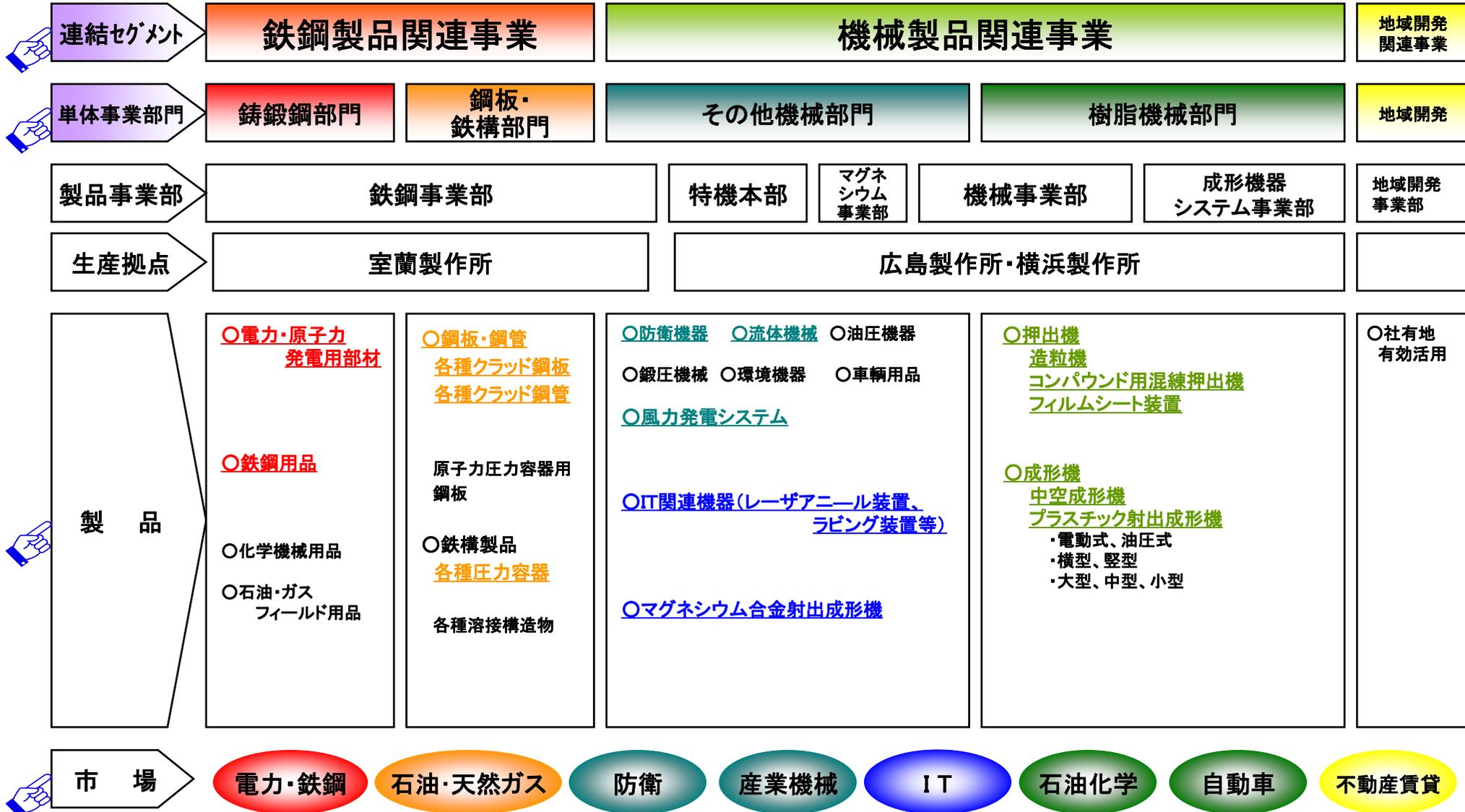
ホームページURL: <http://www.jsw.co.jp>

お問い合わせ先: 経営管理部

部長 渡邊 久郎

TEL: 03-5745-2012 FAX: 03-5745-2021 (広報グループ)

# 事業部門の構成と当社製品群



# 第1部 08.3期決算

# (1)08.3期決算

営業利益・経常利益共に過去最高となる

## 1. 連結損益の状況

(単位:億円)

	07.3 実績 (A)	08.3 前回予想 (B)	08.3 実績 (C)	対前回 予想比 (C)/(B)	対前年 実績比 (C)/(A)
売上高 連単倍率	2,071 1.17 倍	2,180 1.15 倍	2,208 1.17 倍	101.3 % 101.7 %	106.6 % 100.0 %
営業利益 (率)	247 11.9 %	285 13.1 %	324 14.7 %	113.7 %	131.2 %
経常利益	235	270	308	114.1 %	131.1 %
当期純利益	125	150	175	116.7 %	140.0 %
一株当たり 当期純利益	33.71 円	40.40 円	47.10 円	116.6 %	139.7 %

## 2. 単体損益の状況

(単位:億円)

	07.3 実績 (A)	08.3 前回予想 (B)	08.3 実績 (C)	対前回 予想比 (C)/(B)	対前年 実績比 (C)/(A)
売上高	1,775	1,900	1,893	99.6 %	106.6 %
営業利益 (率)	228 12.8 %	265 13.9 %	297 15.7 %	112.1 %	130.3 %
経常利益	219	255	283	111.0 %	129.2 %
当期純利益	122	140	158	112.9 %	129.5 %
一株当たり 当期純利益	32.95 円	37.71 円	42.77 円	113.4 %	129.8 %
記念配当	3 円	0 円	0 円	- 円	△ 3 円
普通配当金	6 円	9 円	12 円	3 円	6 円

普通配当は前年比倍増の12円

## (2)セグメント別連結売上高・営業利益の状況

(単位:億円)

		07.3 実績 (A)	08.3 前回予想 (B)	08.3 実績 (C)	対前回 予想比 (C)/(B)	対前年 実績比 (C)/(A)
鉄鋼製品関連	売上高	763	895	926	103.5 %	121.4 %
	営業利益	140	190	251	132.1 %	179.3 %
機械製品関連	売上高	1,278	1,266	1,261	99.6 %	98.7 %
	営業利益	154	148	132	89.2 %	85.7 %
地域開発関連	売上高	30	19	20	105.3 %	66.7 %
	営業利益	9	7	6	85.7 %	66.7 %
消去又は配分不能費用		△ 56	△ 61	△ 66	108.2 %	117.9 %
合計	売上高	2,071	2,180	2,208	101.3 %	106.6 %
	営業利益	247	285	324	113.7 %	131.2 %

### 08.3期のレビュー

#### ①鉄鋼製品関連事業

火力・原子力発電用部材、海水淡水化プラント・ケミカルタンカー用クラッド鋼板、石油精製用圧力容器の売上増加、増産効果、コスト削減効果、代価是正により高騰する原材料価格のコスト増を吸収し、前期比増収増益。

#### ②機械製品関連事業

造粒機・押出機・フィルムシート装置等の樹脂製造・加工機械は好調なるも、射出成形機の競争激化とIT関連機器・防衛関連機器の減少に伴い、機械セグメント全体では、前期比微減。

#### ③地域開発関連事業

08.3期は分譲事業の売り上げがなく、賃貸資産のみの売上げ利益となる。

# (3)セグメント別受注高の状況

(単位:億円)

		07.3 実績 (A)	08.3 前回予想 (B)	08.3 実績 (C)	対前回 予想比 (C)/(B)	対前年 実績比 (C)/(A)
鉄鋼製品関連	受注高	1,027	1,100	1,180	107.3 %	114.9 %
機械製品関連	受注高	1,241	1,396	1,444	103.4 %	116.4 %
地域開発関連	受注高	20	19	20	105.3 %	100.0 %
合計	受注高	2,288	2,515	2,645	105.2 %	115.6 %

鉄鋼製品全般、樹脂製造・加工機械、射出成形機等、  
主力製品の受注は堅調

# (4)セグメント別業績(売上高・営業利益)

納期変更等により09.3期へズレ

(単位:億円)

		07.3 実績 (A)	08.3 前回予想 (B)	08.3 実績 (C)	対前回 予想比 (C)/(B)	対前年 実績比 (C)/(A)
鉄鋼製品関連	鋳鍛鋼部門	402	420	411	97.9 %	102.2 %
	鋼板・鉄構部門	332	440	463	105.2 %	139.5 %
	(単体部門計)	734	860	874	105.2 %	139.5 %
	連結会社他	29	35	52	148.6 %	179.3 %
	連結売上高	763	895	926	103.5 %	121.4 %
(営業利益)		(140)	(190)	(251)	132.1 %	179.3 %

(単位:億円)

		07.3 実績 (A)	08.3 前回予想 (B)	08.3 実績 (C)	対前回 予想比 (C)/(B)	対前年 実績比 (C)/(A)	
機械製品関連	樹脂機械部門	547	663	648	97.7 %	118.5 %	
	その他機械部門	466	362	355	98.1 %	76.2 %	
	単体部門計	1,013	1,025	1,003	97.9 %	99.0 %	
	連結会社他	IT関連	103	94	105	111.7 %	101.9 %
		その他	162	147	153	104.1 %	94.4 %
	連結売上高	1,278	1,266	1,261	99.6 %	98.7 %	
(営業利益)		(154)	(148)	(132)	89.2 %	85.7 %	

顧客の発注時期が大幅にズレ

# (5)セグメント別業績(受注高)

鑄鍛鋼部門の火力・原子力発電所向けの発電プラント用部材や鋼板・鉄構部門の石油精製用圧力容器、天然ガス田用パイプライン向けクラッド鋼管および淡水化装置用・ケミカルタンカー用を中心とするクラッド鋼板が堅調に推移

顧客発注時期の早期化

(単位:億円)

		07.3 実績 (A)	08.3 前回予想 (B)	08.3 実績 (C)	対前回 予想比 (C)/(B)	対前年 実績比 (C)/(A)
鉄鋼製品関連	鑄鍛鋼部門	503	500	542	108.4 %	107.8 %
	鋼板・鉄構部門	494	565	586	103.7 %	118.6 %
	(単体部門計)	997	1,065	1,128	105.9 %	113.1 %
	連結会社他	30	35	52	148.6 %	173.3 %
	連結受注高	1,027	1,100	1,180	107.3 %	114.9 %

(単位:億円)

		07.3 実績 (A)	08.3 前回予想 (B)	08.3 実績 (C)	対前回 予想比 (C)/(B)	対前年 実績比 (C)/(A)
機械製品関連	樹脂機械部門	577	715	741	103.6 %	128.4 %
	その他機械部門	429	435	444	102.1 %	103.5 %
	(単体部門計)	1,007	1,150	1,185	103.0 %	117.7 %
	連結会社他	234	246	259	105.3 %	110.7 %
	連結受注高	1,241	1,396	1,444	103.4 %	116.4 %

樹脂機械サービス事業の増注

# (6) 連結貸借対照表及び連結キャッシュフロー計算書

(単位:億円)

	07.3 実績 (A)	08.3 前回予想	08.3 実績 (B)	対前年 実績差異 (B)-(A)
流動資産	1,478	1,565	1,686	208
固定資産	846	850	937	91
資産合計	2,324	2,415	2,624	300

(単位:億円)

	07.3 実績 (C)	08.3 前回予想	08.3 実績 (D)	対前年 実績差異 (D)-(C)
流動負債	1,219	1,234	1,362	143
固定負債	349	326	409	60
純資産	756	855	852	96
負債及び 純資産合計	2,324	2,415	2,624	300
自己資本比率	32.4	35.4	32.4	0.0
1株当り純資産	203.2	230.3	229.0	25.8

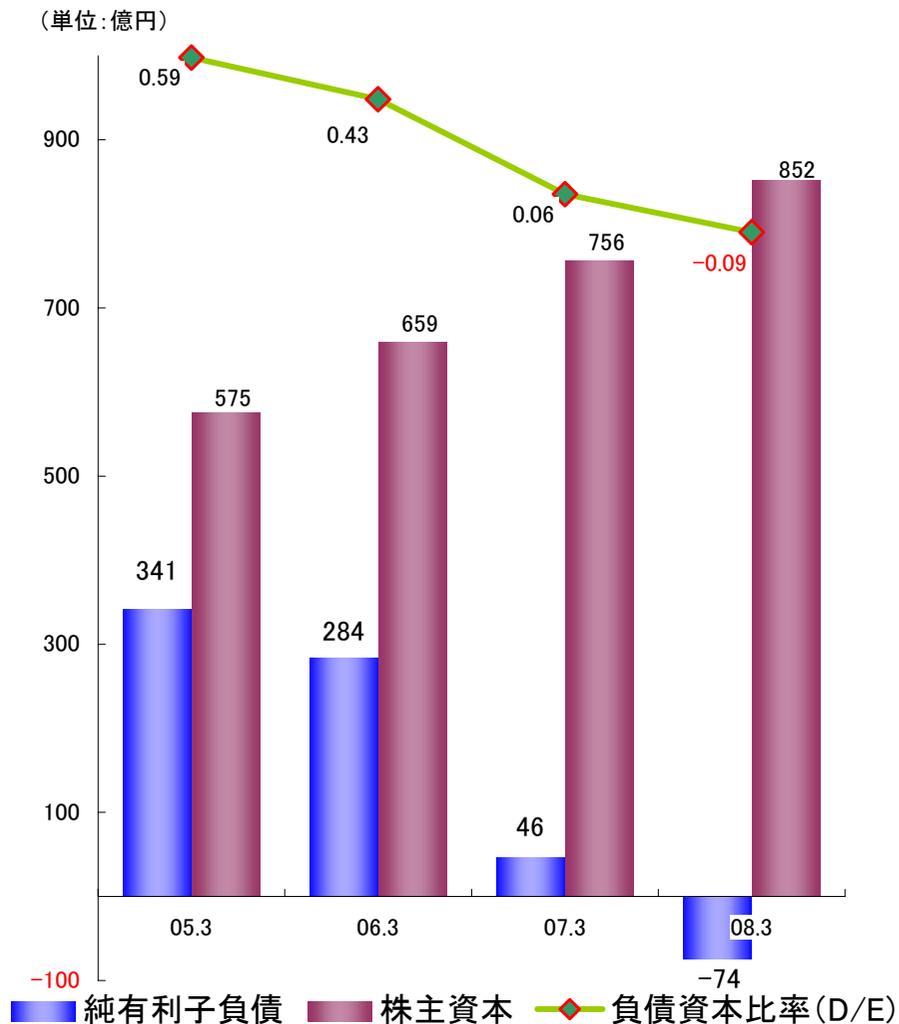
(単位:億円)

	07.3 実績 (A)	08.3 前回予想	08.3 実績 (B)	対前年 実績差異 (B)-(A)
営業活動 キャッシュフロー	356	196	420	64
投資活動 キャッシュフロー	△ 97	△ 110	△ 248	△ 151
計	259	86	172	△ 87
財務活動 キャッシュフロー	△ 167	△ 100	△ 85	82
現金及び現金同等物の 期末残高	275	260	361	85

設備投資の進捗に加え、有価証券  
投資の増加による

前受金受領等による増加

# (7) 財務体質の状況(純有利子負債の推移)(連結)



○08.3期の有利子負債残高は前期比34億円減少し286億円となる。

○純資産は、利益の増加により前期比96億円増加し852億円となる。

○08.3期の純有利子負債残高は、前期比120億円改善し、今後の設備投資に対する資金対応力が増す。

期末	05.3	06.3	07.3	08.3
キャッシュフロー対有利子負債比率(倍)	7.0	8.0	0.9	0.7
インタレストカバレッジレシオ(倍)	6.9	7.1	47.8	92.0
有利子負債EBITDA倍率(倍)	4.4	2.8	1.1	0.7

(単位: 億円)

有利子負債(A)	510	469	320	286
現預金残高(B)	69	185	275	360
	169			
純有利子負債(A)-(B)	341	284	46	△74

09.3期設備投資に充当

# (8) 設備投資(含むリース)・減価償却費・研究開発費の推移

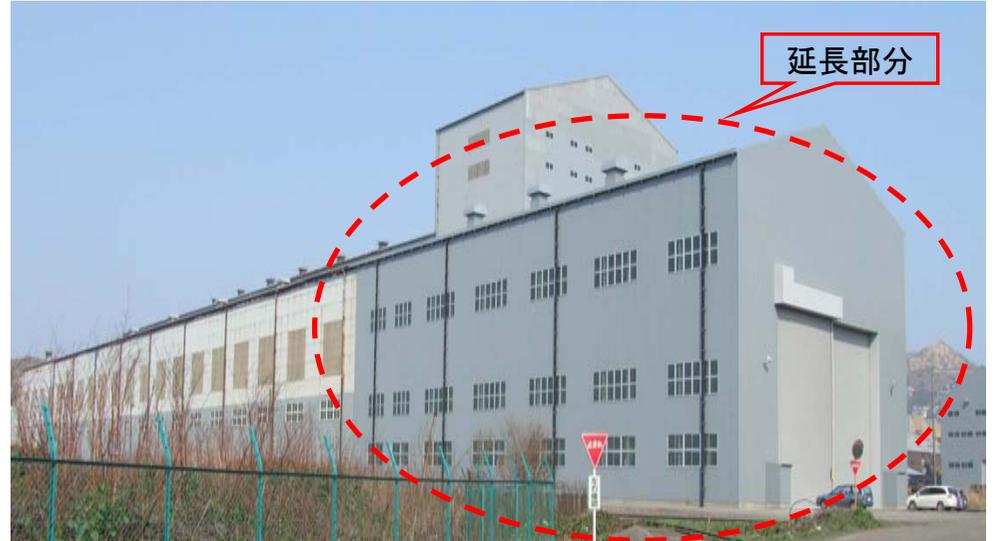
(単位:億円)

	セグメント	04.3	05.3	06.3	07.3	08.3実績	09.3計画
設備投資	鉄鋼製品関連事業	38.2	26.6	32.7	73.2	119.3	338.7
	機械製品関連事業	16.5	10.9	21.3	23.4	35.1	48.1
	地域開発関連事業他	2.8	0.7	1.2	5.0	6.2	4.7
	合計	57.5	38.2	55.2	101.6	160.7	391.5
減価償却費	鉄鋼製品関連事業	16.6	17.5	20.3	25.7	58.0	59.6
	機械製品関連事業	18.0	16.8	16.2	16.6	29.9	37.4
	地域開発関連事業他	12.1	8.5	4.6	4.6	4.6	4.6
	合計	46.7	42.8	41.1	46.9	92.5	101.6
研究開発費	鉄鋼製品関連事業	8.7	12.2	10.1	12.4	15.5	15.6
	機械製品関連事業	20.5	18.8	20.1	20.7	18.5	21.7
	合計	29.2	31.0	30.2	33.1	34.0	37.3

# (9) 室蘭製作所総額500億円(08.3期～10.3期)を越す設備投資は 計画通り順調に進行



出鋼量拡大のため、建屋延長に着手した製鋼工場



石油精製用圧力容器の製造能力拡大のため、組立工場を延長

- 現設備投資計画は計画通りに進行中。
- 電力・原子力・石油精製用圧力容器の需要には衰えが見られず、現計画のみでは今後予測される需要をすべて消化できない状況が懸念される。



- 需要動向を慎重に見極め、更なる設備投資の検討を始めつつあります。
- 公表すべき内容が決定した段階での、速やかな公表を予定しております。

## 第2部 09.3期業績予想

# (1) 09.3期数値目標

## <J2008改の09.3期数値目標>

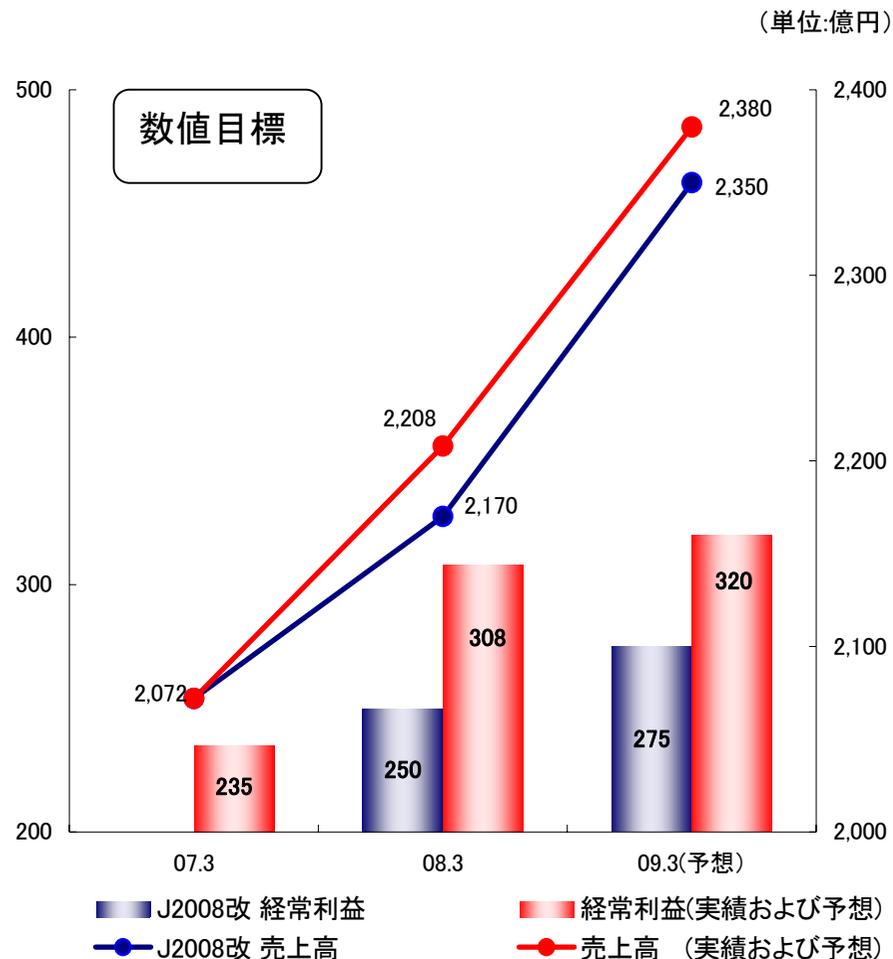
- ①(連結)売上高 : 2,350億円以上
- ②(連結)経常利益 : 275億円以上
- ③(単体)純有利子負債 : 170億円以下
- ④(単体)総資本経常利益率(ROA) : 11%以上

J2008改を上回る  
業容の拡大

## <09.3期の数値目標>

- ①(連結)売上高 : 2,380億円
- ②(連結)経常利益 : 320億円
- ③(単体)純有利子負債 : 179億円(設備投資追加)
- ④(単体)総資本経常利益率(ROA) : 12%以上

業容の拡大へ向けて設備投資の継続を図る一方、  
有利子負債の圧縮を進め、資産効率の向上に努めてゆく



# (2)09.3期計画

4期連続最高益を見込む

## 1. 連結損益の状況

(単位:億円)

	07.3 実績	08.3 実績 (A)	09.3 予想 (B)	対前年 実績比 (B)/(A)
売上高 連単倍率	2,071 1.17 倍	2,208 1.17 倍	2,380 1.15 倍	107.8 % 98.6 %
営業利益 (率)	247 11.9 %	324 14.7 %	333 14.0 %	102.8 %
経常利益	235	308	320	103.9 %
当期純利益	125	175	177	101.1 %
一株当たり 当期純利益	33.71 円	47.10 円	47.68 円	101.2 %

## 2. 単体損益の状況

(単位:億円)

	07.3 実績	08.3 実績 (A)	09.3 予想 (B)	対前年 実績比 (B)/(A)
売上高	1,775	1,893	2,070	109.4 %
営業利益 (率)	228 12.8 %	297 15.7 %	305 14.7 %	102.7 %
経常利益	219	283	298	105.3 %
当期純利益	122	158	167	105.7 %
一株当たり 当期純利益	32.95 円	42.77 円	44.98 円	105.2 %
記念配当	3 円	- 円	- 円	- 円
普通配当金	6 円	12 円	12 円	- 円

# (3) 09.3期セグメント別連結売上高・営業利益の状況

(単位:億円)

		07.3 実績	08.3 実績 (A)	09.3 予想 (B)	対前年 実績比 (B)/(A)
鉄鋼製品関連	売上高	764	926	1,020	110.2 %
	営業利益	140	251	256	102.0 %
機械製品関連	売上高	1,278	1,261	1,340	106.3 %
	営業利益	154	132	137	103.8 %
地域開発関連	売上高	30	20	20	100.0 %
	営業利益	9	6	7	116.7 %
消去又は配分不能費用		△ 56	△ 66	△ 67	101.5 %
合計	売上高	2,071	2,208	2,380	107.8 %
	営業利益	247	324	333	102.8 %

電力・原子力および石油精製用  
圧力容器の売上伸長

樹脂製造・加工機械の売上増加および風力  
開発事業の売上倍増

# (4) 09.3期セグメント別の業績予想(売上高・営業利益・受注高)

発電用部材(原子力を含む)  
は引き続き堅調に推移

## 1. 売上高・営業利益

(単位:億円)

		08.3 実績 (A)	09.3 予想 (B)	対前年 実績比 (B)/(A)
鉄鋼製品関連	鉄鋼製品関連			
	鋳鍛鋼部門	411	465	113.1 %
	鋼板・鉄構部門	463	510	110.2 %
	(単体部門計)	874	975	111.6 %
	連結会社他	52	45	86.5 %
	連結売上高	926	1,020	110.2 %
	(営業利益)	(251)	(256)	102.0 %

淡水化プラント・コークドラム用途  
の拡販を図る

## 2. 受注高

(単位:億円)

		08.3 実績 (A)	09.3 予想 (B)	対前年 実績比 (B)/(A)
鉄鋼製品関連	鉄鋼製品関連			
	鋳鍛鋼部門	542	550	101.5 %
	鋼板・鉄構部門	586	550	93.9 %
	(単体部門計)	1,128	1,100	97.5 %
	連結会社他	52	45	86.5 %
	連結受注高	1,180	1,145	97.0 %

クウェート国営石油向け石油精製用圧力容器の売上  
により前年比上回る

		08.3 実績 (A)	09.3 予想 (B)	対前年 実績比 (B)/(A)	
機械製品関連	機械製品関連				
	樹脂機械部門	648	705	108.8 %	
	その他機械部門	355	375	105.6 %	
	(単体部門計)	1,003	1,080	107.7 %	
	連結会社他	IT関連	105	96	91.4 %
		その他	153	164	107.2 %
		合計売上高	1,261	1,340	106.3 %
	(営業利益)	(132)	(137)	103.8 %	

中東向け減少するも  
市場全体は引き続き好調

		08.3 実績 (A)	09.3 予想 (B)	対前年 実績比 (B)/(A)	
機械製品関連	機械製品関連				
	樹脂機械部門	741	715	96.5 %	
	その他機械部門	444	505	113.7 %	
	(単体部門計)	1,185	1,220	103.0 %	
	連結会社他	IT関連	96	105	109.4 %
		その他	163	165	101.2 %
	合計受注高	1,444	1,490	103.2 %	

M&Aにより譲受けたフィルムシート装置による  
売り上げ増(約44億円)

自社設計風車の販売が  
軌道に乗り、受注増

# (5) 09.3期の受注高・受注残高と10.3期の傾向

## 08.3期の状況

### (受注残高)

○08.3期末受注残高は前期末に比し438億円(23%)増加の2,377億円となる。

内訳: 鋳鍛鋼31%増、鋼板・鉄構19%増、樹脂機械24%増、その他機械23%増とバランスよく増加。

なお、08.3期前回予想(2,275億円)よりも102億円(鋳鍛鋼50億円・樹脂機械40億円)増加した。

## 09.3期の見込み

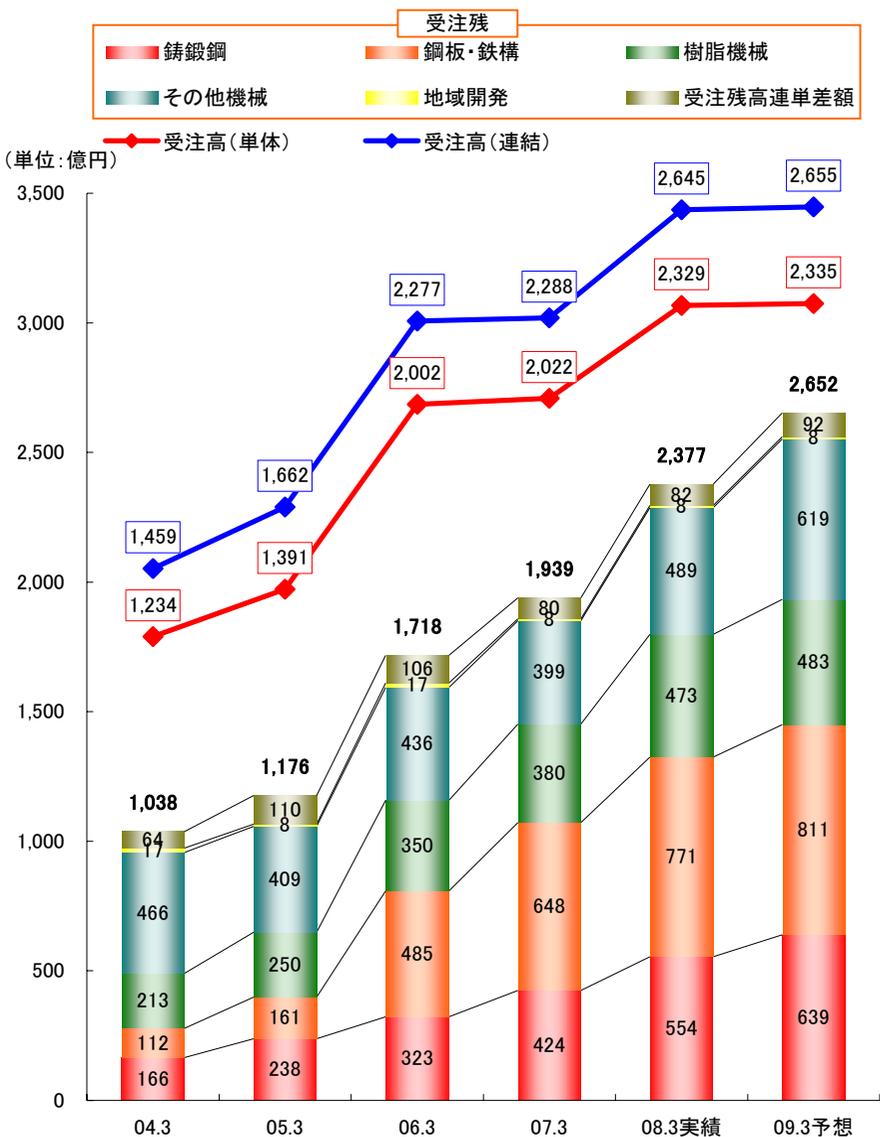
### (受注残高)

○09.3期末受注残高は前期末に比し275億円(12%)増加の2,652億円と、過去最高額を見込む。特に電力・原子力の受注増加に伴い鋳鍛鋼は対前年比85億円(15%)増加、またIT・風力の受注増加によりその他機械が120億円(25%)増加する。鋼板・鉄構および樹脂機械は微増なるも、高水準の残高を維持する見込み。

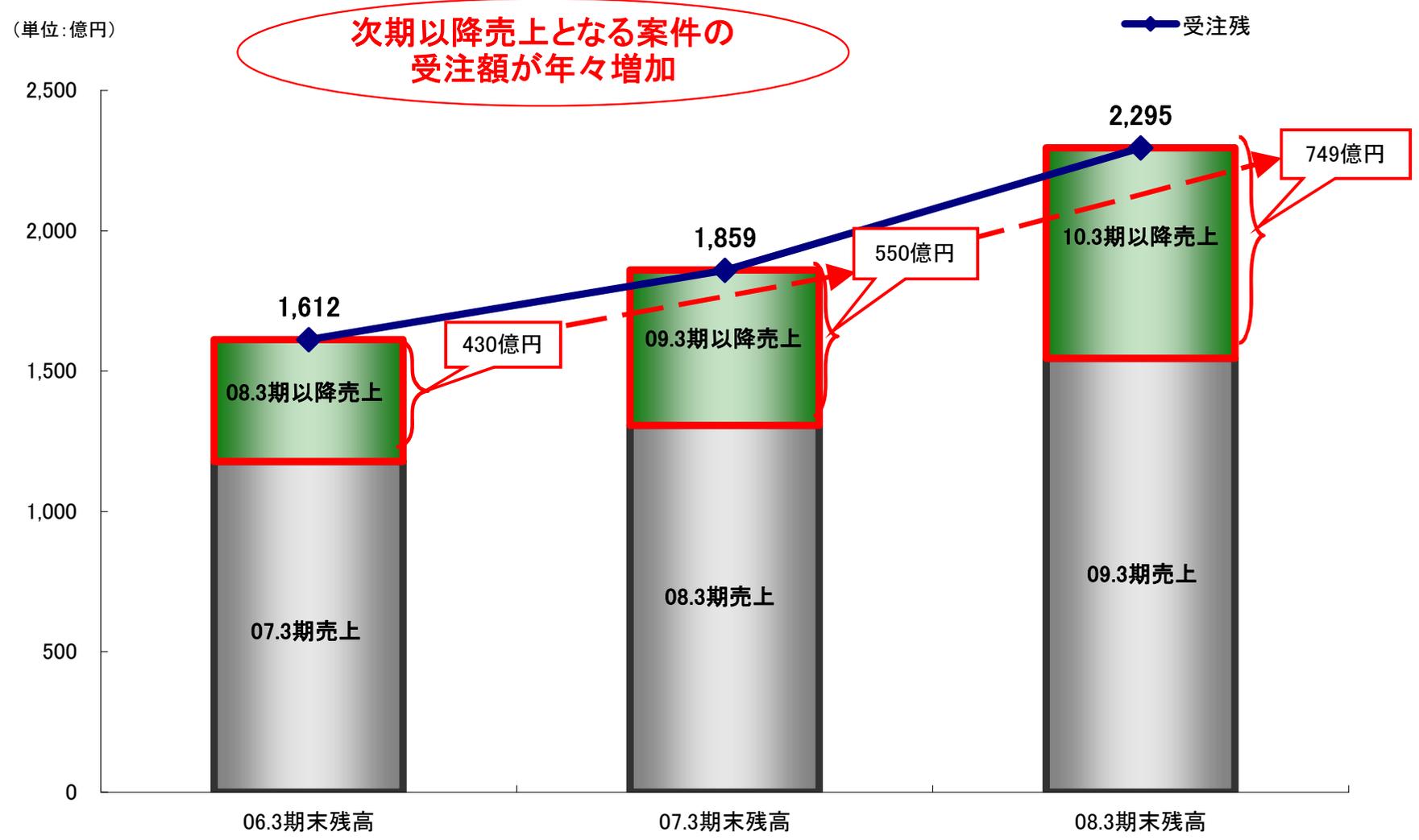
## 10.3期の見込み

○鉄鋼製品関連においては10.3期に室蘭製作所の現行設備投資が完了する計画であり、以降の売上増加に寄与する受注が伸長する見込み。

○機械製品関連においては新興市場の樹脂需要は旺盛であり受注高は伸長する見込み。



# (6) 受注残高(単体実績)の売上展開



## 第3部 各事業部門の業況・見通し

# (1) 鑄鍛鋼部門：電力・原子力の売り上げは引き続き伸長

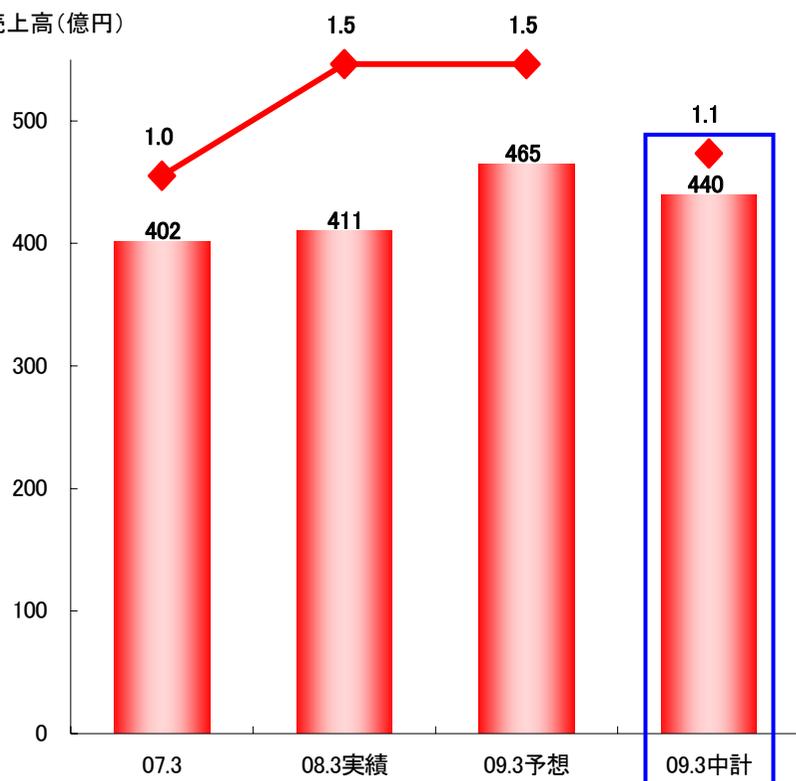
## 中計での取り組み

- ①火力・原子力発電用部材等のニッチトップ・オンリーワン技術戦略の展開によるシェア拡大
- ②需要環境に合わせた生産能力増強・効率化のための設備投資継続実施

## 08.3期における市場環境は

- 電力・原子力の需要は衰えを見せなかった。
- 米国に於ける新規原発建設のステップは着実に前進を見せた。

売上高(億円)



■ 売上計

◆ 営業利益係数(07.3期を1とする)

## 09.3期の見通しは

- 中国の電力需要は、2010年納期案件につき商談中も、一向に減退する様子は見えない。
- 輸出工事に於いては円建契約が主であり、従来と比較し為替リスクは低減。
- 原材料価格の高騰傾向に対応し、代価是正と生産性の改善等により、08.3期に比し増収増益を目指す。

## 10.3期の見込み

- 電力・原子力ビジネスは引き続き好調。

## (2) 鋼板・鉄構部門：エネルギー需要増大により利益伸長を継続

### 中計での取り組み

- ① 需要動向に即した製造ライン・プロセスの構築
- ② 設備投資の継続実施による生産能力増強・効率化の推進

### 08.3期における市場環境

- 原油価格は続騰。世界中で重質油の開発は活発に行われ、その勢いは維持した。
- 石油精製・天然ガス・石油化学・淡水化・ケミカルタンカーなどの需要は活発に推移した。

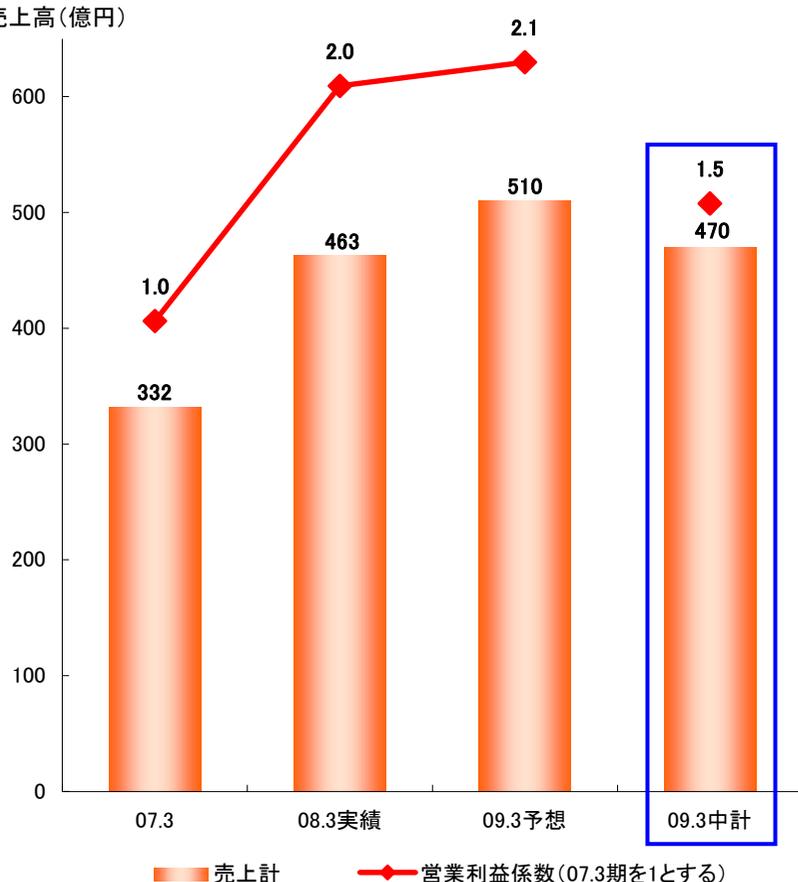
### 09.3期の見込み

- 鍛鋼製石油精製用圧力容器の年間需要は、2004年比約3倍の8万トンを超える。
- 石油精製、コークドラム等の分野に於ける当社製品の需要は依然活発。中計以上の伸びを予測し、08.3期に比し増収増益を目指す。

### 10.3期の見込み

- 天然ガス田用クラッドパイプ市場では、将来的にプロジェクトが活発。
- 中近東地域を中心とした海水淡水化プロジェクトは活発。
- 石油精製用圧力容器は11.3期も、現在の好調な受注が続く見込み。

売上高(億円)



# (3) 樹脂機械部門: 世界的な樹脂使用量の拡大を背景に 売上は引き続き伸長

## 中計での取り組み

- ① 差別化技術の強化とJSWブランドの浸透
- ② アライアンスによる新規事業・新製品育成
- ③ 光学液晶フィルム分野の強化
- ④ 小型射出成形機市場の攻略

## 08.3期における市場環境

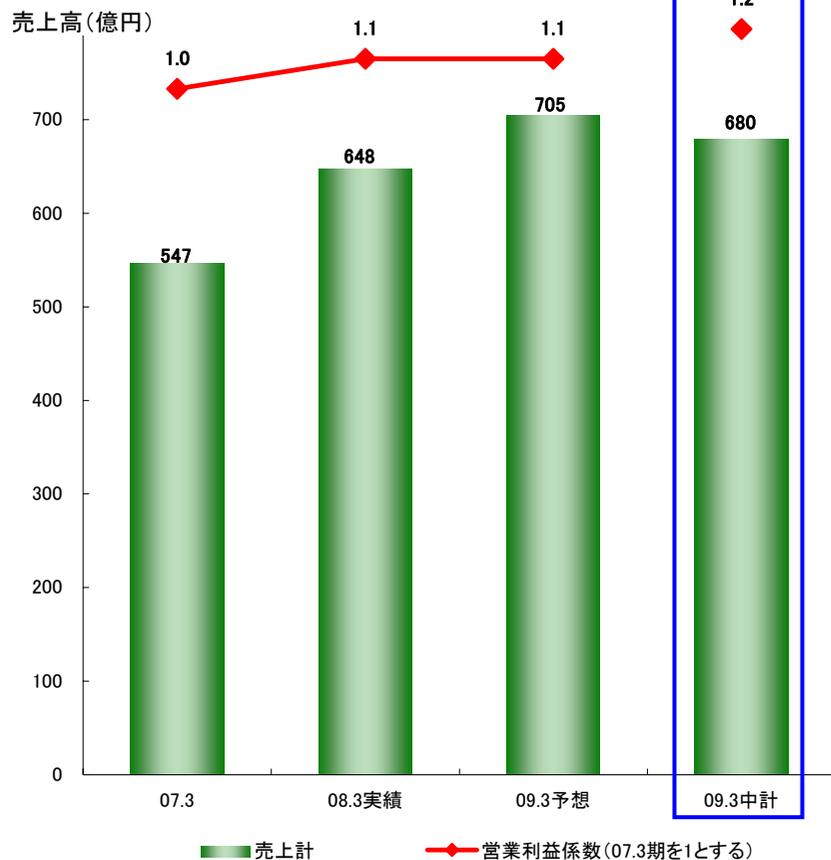
- 造粒機・押出機は中国・中東向けを中心に好調な需要環境が継続した。
- 成形機の国内市場は前年より減少、中国・アセアン・欧州は拡大するも北米・韓国は低迷した。

## 09.3期の見込み

- 造粒機・押出機の市場は引き続き好調。
- 成形機は前年並みの売上水準を見込むも先行きの需要動向が読みにくい展開となっている。

## 10.3期の見込み

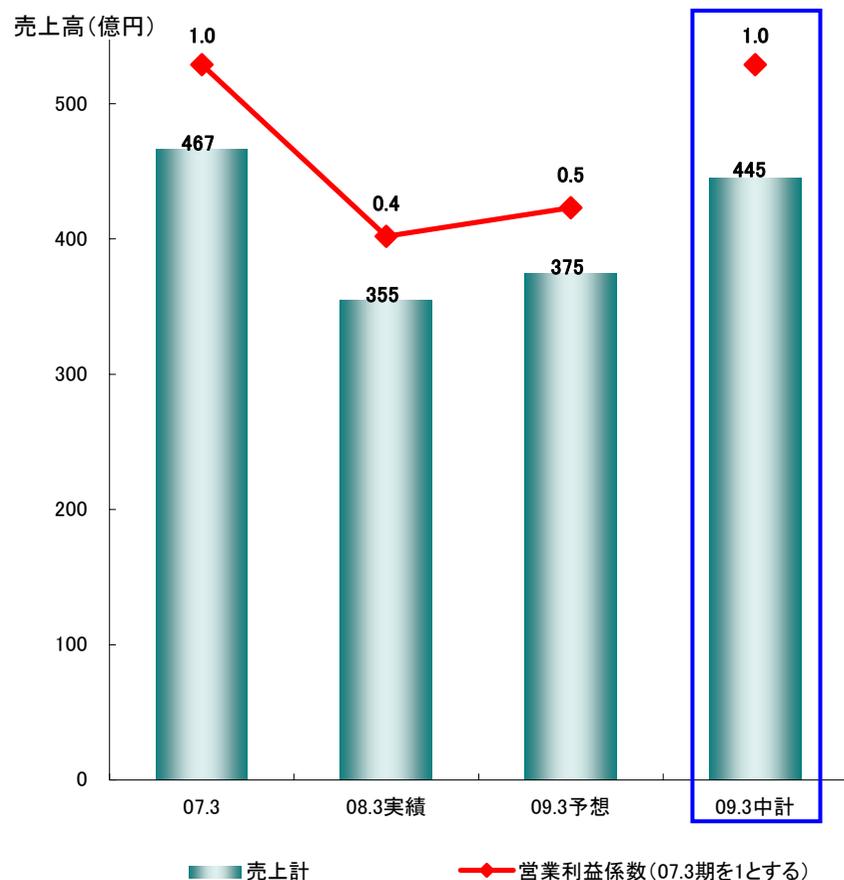
- 造粒機市場は、現在の中国・中東から、中国・インド及びその他(ロシア・南米)に徐々にシフト。
- 押出機は、海外向(中国・インド・東南アジア)で中・大型案件の引合が活発。また、欧米メジャー企業への積極的営業活動を実施。欧州新規顧客よりの受注増に繋げる。
- フィルムシート装置は光学用途、中国向けBOPP共に堅調。
- 成形機はインド・ベトナムにおいて需要増が期待される。



# (4) その他機械部門：技術経営の推進により新規事業分野の伸長

## 中計での取り組み

- ①新製品・新事業の早期投入と戦力化
- ②戦略的アライアンスによる事業拡大
- ③応用製品・周辺製品開発による市場拡大



## 08.3期における市場環境

〈レーザアニール装置〉

○レーザアニール装置の対象市場であるLTPS(低温ポリシリコン)用中・小型FPDは設備投資が控えられた。

〈マグネシウム合金射出成形機〉

○ノートPC世界出荷台数の急増に伴い、且つ又マグネシウム部品採用拡大の動きも活発、大口案件を受注したほか引合も堅調だった。

○環境規制の強化を背景に自動車軽量化の動きが加速。大型マグネシウム部品に関する問い合わせが特に欧米自動車関連企業から増加してきた。

## 09.3期の見込み

○LTPS用中・小型FPD設備投資は再開の見込み。

○有機ELパネルの量産機運が高まり、主要LTPSパネルメーカーによる設備投資が計画、市場の拡大が見込まれる。

⇒レーザアニール装置は08.3期に比し増収増益を目指す。

○マグネシウム事業は引き続きノートPC用とが伸長し、中型機の市場拡大が続く。

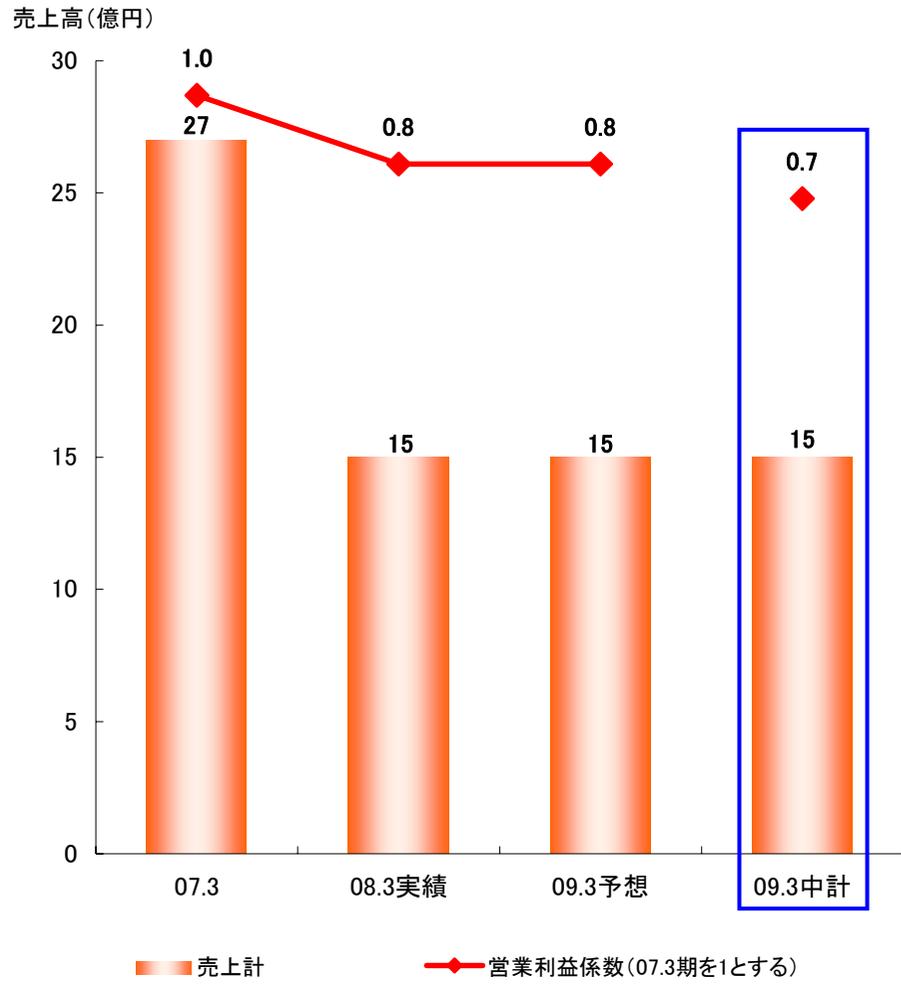
○風力開発事業は08.3期受注増が売上倍増に寄与。

## 10.3期の見込み

○マグネシウム事業は、自動車軽量化に対応した事業展開を加速させる。

○風力開発事業の更なる伸長を見込む。

# (5) 地域開発事業部門: 社有資産の有効活用を推進



○既存賃貸事業の運営・管理業務のレベルアップ、他社との協業による営業力強化  
 →①安定的収益の確保  
 ②キャッシュフローの創出



商業施設(北海道・室蘭弥生ショッピングセンター)

## JSW 日本製鋼所

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。

また、本資料に記載された将来予測等は、08.3期末時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、不確定要素が含まれております。

当社は、本資料の利用により生じたいかなる損害に対しても、一切責任を負いかねます。